

日本の文化再発見

畳のある部屋

日本文化に触れる、作る

今月は、五反野商店街の野村畳店さんと連携し、畳の作り方を学ぶ講座を2つ募集します。募集開始は6/26(火)から!



五反野の畳屋さんと
お仕事体験「ミニミニ畳作り」

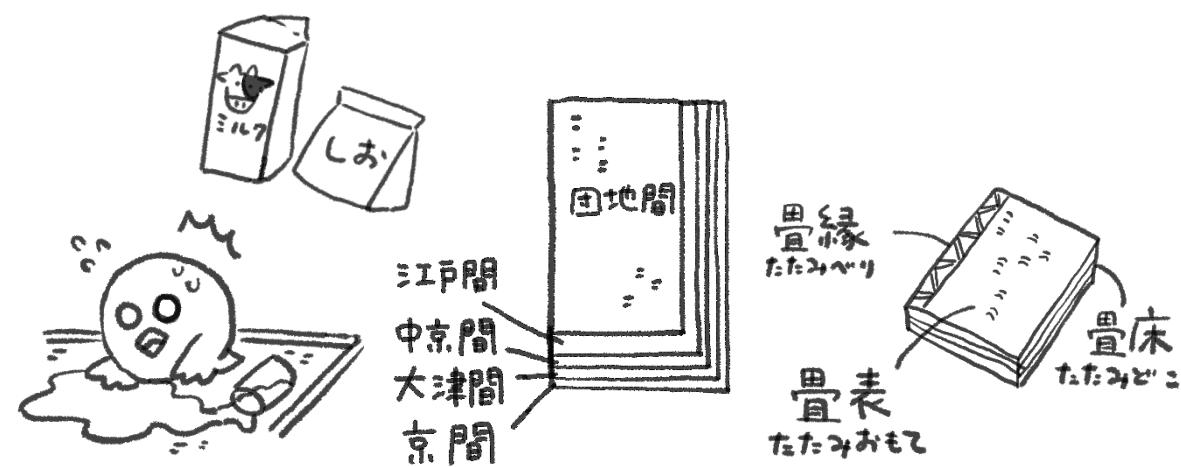
畳屋さんの仕事を見学し実際に
畳作りを体験します。

8/4 (土)
午後1時～2時
対象：4歳～小学生
(小学2年生以下は保護者同伴)
定員：5人
料金：500円

夏の工作教室
「畳コースターを作ろう」

糸と針を使わずに、畳のコースター
を作ります。

7/14 (土)
午後1時～1時30分/午後1時30分～2時/
午後2時～2時30分/午後2時30分～3時/
午後3時～3時30分/午後3時30分～4時
対象：4歳～小学生
(小学2年生以下は保護者同伴)
定員：各5人 料金：無料



畳！マメ知識

畳のつくり

畳は、表面に見えるイグサ等を編みこんだ畳表と、その下にある畳の芯となる畳床、端を縫った畳縁で出来ています。

様々なサイズ

畳って畳を汚した時は、そのままの汚れによって対処がります。例えば、ソースやジュースをこぼした時は、水分を吸い取り、塩をかける。インク等は牛乳で温らせてから固く絞った雑巾でふき取る。油性ペンはマニキュアの除光液を掛けてからふき取る等々、その場に合った対処で汚れを取りましょう。

近年、生活スタイルが洋式化したことでのフローリングの床が主流になり、和室のない家も増えています。とはいっても和室のゆつたりとした雰囲気は今でもたくさん的人に愛され、住居の一室には和室が欲しいと思う人も少なくありません。そんな和室の魅力となる畳には様々な性能があり、その利点の多さが改めて見直されています。今月は、日本固有の文化である畳について特集していきます。

畳の歴史は長く、古事記にも記述があります。実際に今の畳に近い構造のものが現れたのは平安時代、貴族や権力者がベッドのような寝具として使用していました。その後、鎌倉時代から室町時代にかけ書院造が生まれ、畳を床一面に敷き詰める現在の和室の様式に変化し

ました。その頃もまだ畳は位の高い者の使用物でしたが、茶室の登場により畳の需要は高まり、江戸時代後期には庶民の間にも広まりました。

日本で作られた畳は、日本の高温多湿に合う特性を持っています。畳の芯になる畳床の内部は、空気をよく含んでいます。これが室内の空気を吸い込み湿気を吸収し、逆に室内が乾燥してくると、蓄えた水分を外に放出する、吸湿・放湿効果を持っています。またこの畳床に含まれる空気は熱を遮断する断熱効果も生み、暑いときは外の熱を防ぎ、寒いときは温度を外に逃がしません。その他にも音を吸収する防音効果や、畳の表面に使われるイグサの香りが生むリラックス効果など、畳には多様な利点があります。

